

セミ類

子供にも大人にも親しまれてきた。また、種類が限られているので、普通種については同定もたやすく、鳴き声の初認や終認を含めて多くの記録が蓄積されてきている。特に神奈川県では、ぬけがらを利用した調査が多く行われていて、生息環境と発生する種類の関係、都市化のセミ類相への影響などが解析されつつある。またクマゼミの分布拡大の追跡も試みられている。都市化との関係では、市街地の公園ではアブラゼミの割合が大きくなることが指摘されており、一方そうした環境ではヒグラシの姿はほとんど見られない。こうしたぬけがらを利用した調査の内容や、県内のセミ類の分布記録については、平塚市博物館（1994）に網羅的に紹介されている。その内容を参考にして以下の記述を行う。なお、学名は林（1984）によった。

セミ科 Cicadidae

神奈川県には本州中部に産する13種がすべて分布している。そのレッドデータ度を表1に示した。13種のうち、絶滅危惧種が2種、減少種が1種、希少種が1種と判断された。

○アカエゾゼミ *Tibicen flammat*us (Distant)

【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕山地に分布し、ブナなどの落葉広葉樹の自然林に限って生息している。北海道から九州間までに広く分布するが、全国的に分布は局地的である。

〔過去の分布〕県内では、高島（1934）による乙女峠の記録が初めとされ、その後、箱根山地の金時山・台ヶ岳、丹沢山地の世附国有林・箒沢での記録が公表された（具体的な出典については平塚市博物館，1994参照）。

〔調査結果〕本調査では記録できなかった。また、上記の

ような記録があるものの、断片的でその生息状況は明らかになっていない。こうした状況から考えて、県内のアカエゾゼミは分布が局地的で個体数が少なく、今後の天然林の伐採などの影響で容易に絶滅する恐れがあると考えられる。

○ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsumura
【絶滅危惧種D】

〔生息環境〕茨城県以西に分布し、カシ類などの照葉樹林に生息する。社寺林に集団発生していることが多い。

〔過去の分布〕県内では、箱根町湯本の早雲寺の境内が発生地として著名で、1965年に箱根町の天然記念物に指定された（佐藤，1974）。また、佐藤（1974）は、箱根町畑宿の須雲川駒形神社での発生を報告したが、この産地は林の一部が伐採され、消滅したという（佐藤勝信氏私信）。

〔調査結果〕湯本の早雲寺では現在も引き続き本種が発生しているが、個体数は減少傾向にある。本種の県内の産地はきわめて局地的であって、その生息環境の変化がただちに絶滅に結びつく恐れが大きい。

△ハルゼミ *Terpnosia vacua* (Olivier) 【減少種H】

〔生息環境〕5～6月の初夏に出現するセミで、平地から丘陵地、低山地のマツ林に生息する。アカマツ林にもクロマツ林にも生息するが、砂浜のクロマツ林には生息しない。

〔過去の分布〕県内では、かつては広く分布していたと考えられるが、戦時中のマツの伐採、戦後の松食虫の被害などで松林が減少したことと、1970年代以降に丘陵地の開発が進んだ影響で、分布が限られてきている。特に京浜地区では、現在知られている確実な産地は緑区のこどもの国だけになっており、この産地も松林の衰退が認め

神奈川県産セミ科レッドデータ度一覧表

種 名	RD度	衰退原因	備 考
ニイニゼミ	健在L		平地～低山地の林に普通
コエゾゼミ	健在J		高標高の山地に分布
エゾゼミ	健在J		山地に普通
アカエゾゼミ	危惧D	？	5例の記録のみ
クマゼミ	健在J		南部に普通で分布拡大傾向
アブラゼミ	健在L		平地～低山地の林に普通
ハルゼミ	減少H	丘陵地の開発・マツ林の衰退	マツ林のみに生息
エゾハルゼミ	健在J		山地に普通
ヒメハルゼミ	危惧D	生息地の環境変化	箱根町湯本のみ
ヒグラシ	健在K		丘陵地～山地に普通
ミンミンゼミ	健在L		平地～低山地の林に普通
ツクツクボウシ	健在L		平地～低山地の林に普通
チッチゼミ	希少I＊		2例の記録のみ

られ将来が危ぶまれるという（桑原，1992）。その他の地域には点々と産地が分布しているが，三浦半島では減少が目立っている（平塚市博物館，1994）。

〔調査結果〕本調査では，緑区こどもの国（高桑），平塚市湘南平，藤野町小淵（以上浜口）で記録された。全体に分布が局地的になってきており，今後の減少が心配される。

▲チッチゼミ *Cicadetta radiator* (Uhler) 【希少種】

〔生息環境〕本州ではもっとも小さなセミで，ツツジ類を低木に持つ丘陵地のマツ林に生息する。

〔過去の分布〕県内での本種の記録はきわめて少なく，わずかに清川村宮ヶ瀬（大場，1981）及び箱根町仙石原（林，1983）の2例が知られているに過ぎない。また，その後の確実な観察採集例もない。

〔調査結果〕本調査では記録されなかった。県内での本種

の分布はきわめて局地的で，容易に絶滅する恐れがあると判断される。

文献

- 林 正美，1983. 箱根でのチッチゼミの記録. *Cicada*, 5 (1): 18.
 林 正美，1984. 日本産セミ科概説. *Cicada*, 5 (2/3/4): 1-51.
 平塚市博物館，1994. セミのぬけがら調べ. 124 pp.
 桑原康裕，1992. セミ. こどもの国自然環境保全調査報告書，p.78. 神奈川県自然保全研究会.
 大場信義，1981. 神奈川県のカミ類. 神奈川県昆虫調査報告書，pp. 185-187. 神奈川県教育委員会.
 佐藤勝信，1974. 箱根の蟬. 箱根の文化財，9: 1-32. 箱根町教育委員会.
 高島春雄，1934. 乙女峠のアカエゾゼミ. 昆虫界，28 (10): 434.

（浜口哲一）